

2012年(平成24年)3月15日(木曜日)

伝統芸能

落語・舞踏への文楽の影響探る 豊竹英大夫らが公演



に判断してほしい」と話す。
文楽と落語の部では文楽の桂川連理柵(れ

文楽が落語や舞踏に与えた影響を紹介する公演「投影と踏襲」が17日、神戸市中央区のジーベックホールで開かれる。出演者の一人、文楽太夫の豊竹英大夫(はなふさだゆう、写真)は「文楽と落語、舞踏を連続上演し、語りや身体表現で似たものを見いだせるかどうかをお客さんに判断してほしい」と話す。

「帯屋の段」を英大夫らが上演、この段をパロディーにした落語「どつらんの幸助」を桂雀松が上演。文楽と舞踏の部では舞踏家の土方巽の著作「病める舞姫」の一部詞章を英大夫らが義太夫節で語る。それに合わせて人形遣いの桐竹勘十郎らが人形を持たずに操る姿を披露。続いて舞踏家の由良部正美が踊る。